

行政官の仕事

上杉 哲郎 氏

本日は、私の行政官の経験を話す。国家公務員の採用方法や公務員の異動、昇進、業務内容や仕事の進め方などを説明する。また、公務員に求められることや高校時代の過ごし方などについても私の経験を基に話す。

行政官といっても財務省などの省庁の職員である国家公務員や都道府県職員、市町村職員がある。都道府県や市町村のトップは選挙で選ばれるのに対して、国家公務員のトップである大臣は基本的に国会議員から指名される。いずれにしても行政官はこれらの各機関に採用される人員のことである。

次に国家公務員には総合職と一般職があるが、採用後の動きを総合職中心に話す。最初は採用官庁の本省である霞が関に配置され、その後は2年程度でさまざまにポストを移動する。年数に応じて係員、係長、課長補佐、室長、課長、部長、局長などの順番で昇進するがこれは人により速さなどは変わる。ポストは本省だけでなく地方への異動もある。一般的に行政系の方が幅広いポストを経験し、技術系は専門性の強いポストに就く傾向があるが、技術系の方が地方機関への異動は多い。

本省は政策の企画立案や地方機関の指導監督など、地方機関は事業実施や規制事務などで業務内容は就いたポストによりさまざまであり、行政官は幅広い業務をこなすことが求められる。

次に国家公務員業務内容について話す。まず、掌握分野について国家として方向性を提案・策定したり、国際社会への対応を図るなど政策の企画立案。2つ目に策定された国家方針の実施を促し関係機関からの相談等に対応し、政策の実現を図ること。3つ目に予算や法令等に基づいた各種事業の管理や自治体への対応による政策の実施である。行政官はポストに応じた業務内容をこなすことが必要。

次に国家公務員の仕事の進め方を話す。法令や運用方針、行政計画の内容検討、予算や税制の要求、関係方面との調整などを総合的に行い政策の実現を目指す。政策の実施にあたっては事業や調査計画、所管施設の管理法令等に基づく許認可等の事務を行う。行政官はポストに応じた仕事の進め方が必要である。

国家公務員に求められることとして、掌握分野に関する知見や基礎知識など専門的な知見が必要。また、社会全般の動きに対する感受性や一般的、世界的な動向への関心など世間一般への関心も求められる。そのためには、相手を理解し理解される包容力や倫理観など人との関りが重要。行政官には知見、社会関心、人格などが求められる。

高校3年間の過ごし方のすすめとして、得意科目を伸ばし幅広い教養を身につけまずは勉強をしっかりしてほしい。クラブ活動はやり通す力や体力が身につく。他の学年や、学校との横のつながりも広がる。失敗してもやり直しが可能だと思い、怖がらずに先生や親、友達に疑問・質問を投げかけるなど前向き思考でいこう。友達は生涯の宝になるから友達を多くつくり、高校生活を楽しんでほしい。

【質疑応答】

Q. どうして行政官になろうと思ったのか？

A. 4年生の時に就職について考えた。大学で専攻した理科二類を活かせる仕事で選んだ。実は専攻は大学入学時に決まっているわけではなく1、2年の成績に応じて決まる。私は農学部で緑地学を専攻。山登りが好きで山岳部やワンダーフォーゲル部に所属。就職してからも関連したことができればいいと思った。就職について考えるのは大学3年でも遅くない。今深く考えなくてもオーケー。得意科目を作って、それを伸ばすことがよい。読書や新聞も大事。新聞は好きなところを読めばよい。仕事上判断する際支えになる。公務員に就職し、新聞から仕事上必要な部分を切り抜き上司に配る仕事があったときに新聞を読んでいたことが役立った。中学の部活はバレーボール。粘ってやり通す、頑張れる体力をクラブ活動で身につける。クラブ活動は横の繋がりもできるのでよい。クラブの仲間とはいまだに、旅行などで親しく交友している。

Q. 一番記憶に残っている仕事は？

A. 宮内庁に4年出向していた時に論文を執筆したこと。国立科学博物館の会報に載っている

Q. 給料は？

A. 学歴によって違うが、大企業よりは低く中小よりは高い。ポストによって違いはある。東大の同級生と比較して大差なし。人勧は民間の平均をとっているため。

Q. 公務員試験はどんなもの？

A. 一般教養と専門的の両方がある。合格したら名簿に載り希望する省庁の面接を受ける。人気のある省庁は倍率2倍ほどになる。

Q. 面接で聞かれることは？

A. 普段どういうことを重視して生活し、何を考えてどうしたいか。社会に対する考えなど。そのためにも、社会に関心や幅広い知識を持つことが大事。官僚で勝高出身者は少なく、霞が関にはあまりいない。市役所、県などの地方公務員は多い。